飼養衛生管理者養成講習会を開催しました

『発生農場から見えた豚熱防御の鍵』
～現場が教えてくれたワクチネーションとバイオセキュリティの実践～

講師：伊藤　　貢 獣医師（有限会社あかばね動物クリニック 会長）

今回の講習会では、豚熱（CSF）の発生事例を基に、農場現場から見た防御の要点について講演が行われた。特に、発生農場で実際に起きた問題と、そこから導かれた改善策についての解説は非常に具体的であり、畜産現場における防疫の重要性を改めて理解する内容であった。

主な学習ポイント

●ウイルス侵入要因の多様性
・山林・土砂流入・雨水・野生動物・敷料輸送・出荷台など複数ルートから侵入可能。
・衛生レベルの高い農場でも、環境要因や動線管理の“盲点”が発生に結びつく。

●バイオセキュリティの重要点
・入口・前室・通路管理、専用長靴・作業着の徹底、野生動物侵入防止が最重要。
・消毒は唯一ウイルスを“殺す”手段であり、希釈倍率の季節差、汚れの影響を理解して運用する必要がある。
・防護壁や通路は設置後のメンテナンスが効果を左右する。

●ワクチネーションの課題
・接種の遅れ、不均一、移行抗体を理解しない接種時期設定が発生リスクを高める。
・環境中のウイルスが存在する場合、免疫の穴に入った個体から発生が起こりやすい。
・追加接種ばかりに気を取られ、離乳期の免疫ギャップが拡大している農場が多い。

●人的要因
・発生農場への聞き取りでは「もっと人の教育をしておけばよかった」という意見が多数。
・全ての入場者が同じルールを守れる仕組みづくりが必須。

今後の対応

豚熱防御には、ワクチンとバイオセキュリティの両輪が不可欠であることを再確認した。

特に、**入口・通路・前室の管理、季節に応じた消毒運用、ワクチン接種時期の妥当性評価**が重要。

今後は、現場で以下を重点的に見直す必要がある。
・入口および動線の管理徹底
・消毒方法と希釈倍率の適正化
・ワクチン接種歴・母豚抗体価を踏まえた接種時期の綿密な設定
・入場者の教育とルール遵守のチェック体制強化